



第一生命ホールで行われたピティナ・ピアノフェスティバル vol.59「ピアニストのための身体革命」。御木本メソッドの全貌を紹介する講座はこれが初めてとあって、全国からピアノ指導者が集まった。

O u r M u s i c S u m m e r

2004 5 月 ~ 2004 7 月

Replay

- ピティナ・ピアノフェスティバルVol.59
「ピアニストのための身体革命」
- ピティナ・ピアノ指導セミナー Vol.23
中級編
- 第39回通常総会
- 第28回ピティナ・ピアノコンペティション
- ピティナっ子の活躍(カントゥ市国際コンクール/仙台国際コンクール/エリーザベト王妃国際ピアノコンクール(優勝者との共演))



今年も暑い夏がやってきた!第28回ピティナ・ピアノコンペティション地区予選の様子。



『ピアニストのための身体革命』で 御木本メソッド、全貌あらわす

5月4日(火)・5日(水): 第一生命ホール(東京・晴海)

ゴールデンウィーク最後の2日間、東京・晴海の第一生命ホールは、ピアノ指導者の熱気に包まれた。これまで多くのピアニスト、ピアノ学習者の指や腕の強化を手助けしてきた御木本メソッドが、ついに本人出演の公演という形で実現した。ピティナ・ピアノフェスティバル Vol.59を数える今回、メソッドの真髄を見ようと、全国のピアノ指導者で会場は連日満席となった。講義は5回に分けられ、基本的な筋肉や神経の説明から、御木本

先生考案の器具を使っでの実演、モデルのみならずご本人の演奏まであり、御木本メソッドの全容が明らかになった。

会場ロビーでトレーニングボードを販売。飛ぶように売れた。



様々なトレーニング器具を使っでの講義。バランスボールは、上腕を落下させ反動で腕を弾ませる動作を行うが、これは豊かな音量を得る効果がある。



今回の企画者である播本三恵子フェスティバル
委員長(左)。



前方スクリーンで、
手の形を分かりやすく説明。



ご本人考案のトレーニングボードで、プレゼンテーションする御木本
先生。数々のピアニストが利用している器具が、意外にも公演は今
回が初めて。



スーパーボールは、指の交互運動のス
ピードを速くするため。手はピアノを弾
く形にして、指の間にボールをはさみ、
指の付け根を上下に動かす運動を。
アシスタント:恩田明香先生。



アレクサンダーテクニックの説明をする新海みどり先生。身体
全体で音を奏でるために、筋肉や神経系統の知識は必須。
写真は広背筋を指し示している。



最後には御木本先生の実演も。

ピティナ・ピアノ指導セミナー Vol.23 中級

4月25日(日)：東邦S音楽大学内教室(東京)



藤澤克江先生「音色の芸術」。時代・様式による弾き分け等を解説。ピアノ実演はお弟子さんで正会員の中島裕之先生。



「ポップスはクラシックから生まれた」ー 春畑セロリ先生「レッスンとポップスの微妙な関係」より。

4月25日(日)ピティナ・ピアノ指導セミナーvol.23が行われた。中級を対象にしたもので、藤澤克江先生、春畑セロリ先生、角野裕先生がそれぞれレクチャーを行った。本誌特集2で、春畑先生の「レッスンとポップスの微妙な関係」をダイジェスト版でお届けする。



角野裕先生「連弾の秘訣～多彩な音楽表現を求めて(ブラームス作品 52a 公開レッスン)

第39回通常総会開かれる

6月15日(火)：東音ホール(東京)

6月15日(火)理事会ならびに第39回通常総会が当協会本部にて行われた。総会では互選により今井顕正会員を議長に選出。主に平成15年度収支決算と、ステップ委員会関連の再編が承認された。

議長を務める今井顕先生。



今年のコンペ要項と参加賞。

28回目夏のコンペ、各地で熱い予選が開かれる

5月～：全国各地

5月中旬東京での予選を皮切りに、全国で連日開催されている第28回ピティナ・ピアノコンペティション。今年はグランミュージック部門が参加者が150%増。まさに子供から大人まで、全国のステージで熱い闘いを見せる。全国決勝大会・表彰式は8月21日～24日。

待ちに待った結果発表の様子。



コンチェルトの国際コンクールで、 ピティナっ子2名が第2位

関本昌平さんが伊・カントゥ国際コンクールで第2位
仙台国際コンクール開催、高田匡隆さんが第2位入賞



仙台国際コンクール第2位、高田匡隆さん。

コンチェルトをメインにした国際コンクールは世界的にも珍しいが、5月・6月にイタリアと仙台で行われ、いずれもピティナっ子が第2位入賞を果たした。5月は伊・カントゥ市国際コンクール。関本昌平さん（昨年度特級グランプリ）はチャイコフスキー協奏曲 No.1 を携えての出場。2回の予選を経て、決勝では地元オーケストラを引っ張るほどの熱演を見せ、イタリアの聴衆を大いに沸かせた。

また6月仙台で行われた第2回仙台国際コンクールでは、高田匡隆さんが成熟した演奏を安定的に披露し、第2位受賞。全てのラウンドでコンチェルトが課されるといふ、課題の厳しさはつとに有名だが、決勝のリスト協奏曲 No.2 は、オケとの息も合い、聴衆の心をつかんだ。



仙台国際コンクール表彰式にて。中央は第1位のタン・シャオタン（中国）。



イタリア・カントゥ市国際コンクールにて。左より第2位関本昌平さん、審査員の二宮裕子先生、第1位のマイケル・ナミロフスキーさん。ナミロフスキーさんは1ヵ月後の仙台国際で第3位入賞した。

カントゥ市はミラノから電車で約40分、イタリア有数の景勝地コモ湖付近にある。学生にコンチェルトを演奏する機会を与えるために創設されたコンクールで、今年14回目。過去に実力派の入賞者を多く輩出している。

ピティナっ子、 2003年度エリーザベト国際コンクール覇者と共演

2004年6月5日（土） / ザ・フェニックスホール（大阪）



2003年度エリーザベト王妃国際ピアノコンクール覇者のセヴェリン・フォン・エッカーツシュタインが、6月初旬に来日。東京と大阪で公演を行った。大阪では地元のピティナっ子2名（酒井有彩さん、小塩真愛さん）が前半に、後半にエッカーツシュタインが演奏するという豪華プログラムとなった。